

AWS Service Catalog

2016/3/9

AWS Black Belt Tech Webinar 2016
アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社
セキュリティコンサルタント 松本 照吾

自己紹介

名前：松本 照吾

所属：アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社
プロフェッショナルサービス本部
セキュリティ コンサルタント



経歴：セキュリティコンサルタント（情報セキュリティ監査、ISMS、BCMS等）

好きなAWSサービス：リスクとコンプライアンスホワイトペーパー

内容についての注意点

- 📦 本資料では2016年3月9日時点のサービス内容および価格についてご説明しています。最新の情報はAWS公式ウェブサイト(<http://aws.amazon.com>)にてご確認ください。
- 📦 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格とAWS公式ウェブサイト記載の価格に相違があった場合、AWS公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます。
- 📦 価格は税抜表記となっております。日本居住者のお客様が東京リージョンを使用する場合、別途消費税をご請求させていただきます。

AWS does not offer binding price quotes. AWS pricing is publicly available and is subject to change in accordance with the AWS Customer Agreement available at <http://aws.amazon.com/agreement/>. Any pricing information included in this document is provided only as an estimate of usage charges for AWS services based on certain information that you have provided. Monthly charges will be based on your actual use of AWS services, and may vary from the estimates provided.

Agenda

- AWS Service Catalogとは
- AWS Service Catalogの基本的な概念
- AWS Service Catalogの利用
- AWS Service Catalogによる運用管理
- 料金
- まとめ



Agenda

- AWS Service Catalogとは
- AWS Service Catalogの基本的な概念
- AWS Service Catalogの利用
- AWS Service Catalogによる運用管理
- 料金
- まとめ



AWS Service Catalogとは

- 組織として許可されたAWSサービスのカタログの作成と集中管理が可能に
 - VM イメージ、サーバ、ソフトウェア、およびデータベースが含まれる
- Service Catalogに登録されたサービスはユーザーがセルフサービスですばやくデプロイが可能に
- ガバナンスとコンプライアンス要件への適応をサポート
- リージョンベースのサービス
 - 米国東部 (バージニア北部)、米国西部 (オレゴン)、欧州 (アイルランド)、アジアパシフィック (東京およびシンガポール) の各リージョンをサポート(2016年3月現在)

より良いAWS利用のための組織構築

- 導入当初は、AWSによってビジネスを加速させたいニーズがある部門などが中心

やりたいことをすぐに実現できることが、AWSの魅力!!!



さまざまなプロジェクトでの利用が加速

- 利用が加速すると、ニーズの異なるユーザが増える。利用する環境やセキュリティ等の実装はそれぞれ異なる。



ガバナンスの観点からみた課題

- 管理をする視点からすると、“勝手”な利用は好ましいものではない



過剰な権限はやっぱり
与えたくない

各部門が勝手にサービスを
立ち上げてるけど、環境が
バラバラ、こんなハイスペック
必要なのか？

利用側の視点からみた課題

- “自分たちのニーズ”にそった環境がすぐに用意できないとビジネスが加速しない

管理が厳しくなって、承認プロセスが増えるなど、AWSを使いにくくなった……



望ましい解決策とは？

- 組織としての管理要件を満たしたサービスを、利用側が速やかに立ち上げられる環境を提供すること



組織のガバナンス適用
適切な権限管理

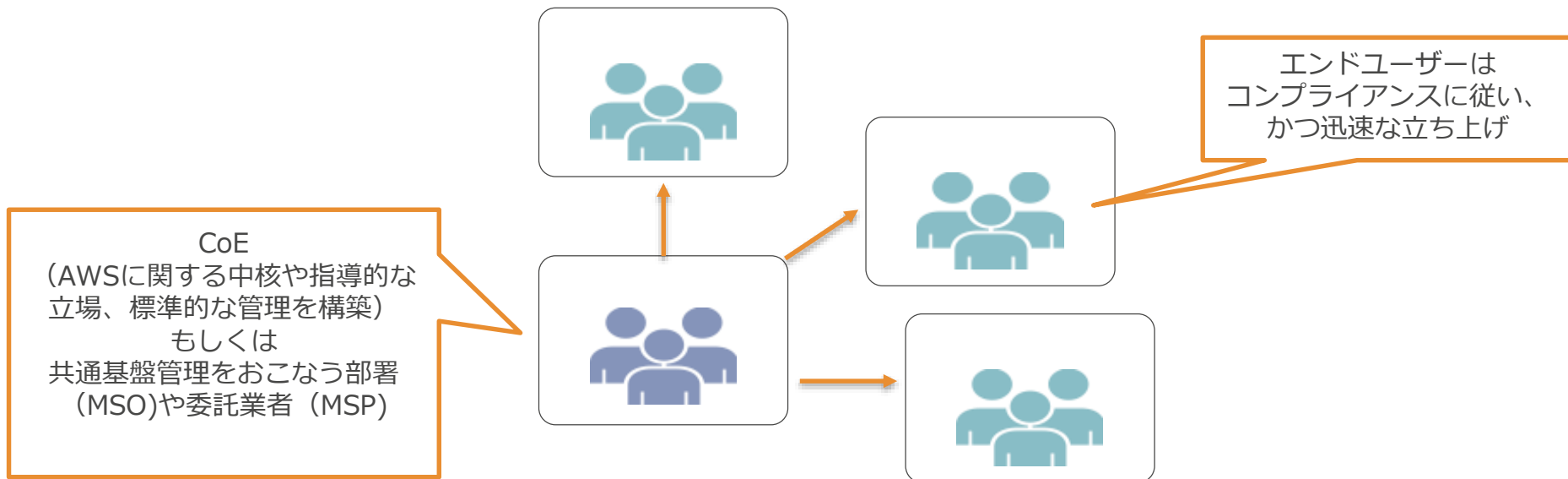
Win-Win



セルフサービスによる
迅速なサービス立ち上げ

より良いAWS利用のための組織構築

- CoE (Center Of Excellence) やMSO (Managed Service Organization) 、 MSP (Managed Service Provider)による統制



主な利用ターゲット

- 組織のガバナンス観点から、AWSの利用を管理していく役割を担う部門など
- クラウドリソースの標準化のためにポリシーを集中管理（数千人のユーザーや部門の用途にあわせた管理）
- 小規模組織でも、開発/テスト環境の標準化、提供に効果的
- CloudFormationの利用が多いが管理が大変な組織



AWS Service Catalogがもたらすもの

- 管理者にとって

- 利用部門となるエンドユーザに一定の制約下での自由を与えたセルフサービス環境を提供できる
- 管理者によって組織のガバナンスを容易に適用できる
- 過剰な権限をエンドユーザに与えることなくAWSリソースを管理できる
- ポートフォリオやバージョン管理という形でCloudFormation環境を効率的に管理することができる

- エンドユーザにとって

- サービスの立ち上げに当たってカタログから選択するだけですみやかな立ち上げができる
- インスタンスタイプなどを自分たちの要望にあわせてセルフサービスで立ち上げができる

Agenda

- AWS Service Catalogとは
- AWS Service Catalogの基本的な概念
- AWS Service Catalogの利用
- AWS Service Catalogによる運用管理
- 料金
- まとめ



AWS Service Catalogの基本的な概念

- Service Catalogを理解する上では次の概念を理解すること
 - 製品
 - ポートフォリオ
 - 制約
- Service Catalogと連携するサービスを理解すること
 - CloudFormation
 - IAM

AWS Service Catalog の概念：製品

- 製品

- インポートされたCloudFormationテンプレート（複数のITサービスの集合）
- 1 つまたは複数の AWS リソースから構成
- 複数のバージョンの製品を管理するにはバージョニングを使用

AWS Service Catalog の概念 : ポートフォリオ

- ポートフォリオ
 - 製品とその設定情報のコレクション
 - 特定の製品を使用できるユーザーとその使用方法の管理に役立つ

AWS Service Catalog の概念 : 制約

- 制約

- 製品に対して特定の AWS リソースをデプロイするための方法を制限することが可能
 - テンプレート制約 : ユーザが使用できる設定パラメータ (EC2 インスタンスタイプやIP範囲など) を制限
 - 起動制約 : AWS CloudFormation テンプレートを製品に再利用して、製品単位またはポートフォリオ単位でテンプレートに制限を適用

Service Catalogに関連するAWSサービス

- 特に関連のあるAWSサービスは次のとおり
 - CloudFormation
 - IAM

CloudFormationスタック

- CloudFormation スタックにより、様々なサービスを単一のユニットとしてプロビジョニング、タグ付け、更新、および終了を制御
 - 製品のライフサイクルを管理しやすい
 - スタックの中にはCloudFormationテンプレートおよびその関連するリソースのコレクションが含まれる

AWS Service Catalog にアクセスする





- IAM を使用してカタログにアクセスできるユーザーを制御
- IAM ロールを使用するように推奨
- 2 種類のユーザー：
 - カタログ管理者
 - 製品のカタログを管理
 - 製品をポートフォリオに整理
 - IAM を使用してエンドユーザーにアクセス権を付与
 - エンドユーザー
 - アクセス権を付与されている製品を起動

エンドユーザへのIAMポリシー

ポリシーのアタッチ

アタッチするポリシーを 1 個以上選択してください。グループは、それぞれ 10 個までのポリシーをアタッチできます。

フィルター: ポリシータイプ ▾ 結果件数: 4

	ポリシー名 ⇅	アタッチされたエンティティ ⇅	作成時刻 ⇅	編集時刻 ⇅
<input type="checkbox"/>	 ServiceCatalogAdminFullAccess	0	2015-09-30 03:39 UTC+0900	2015-09-30 03:39 UTC+0900
<input type="checkbox"/>	 ServiceCatalogAdminReadOnlyAccess	0	2015-09-30 03:40 UTC+0900	2015-09-30 03:40 UTC+0900
<input type="checkbox"/>	 ServiceCatalogEndUserAccess	0	2015-09-30 03:41 UTC+0900	2015-09-30 03:41 UTC+0900
<input type="checkbox"/>	 ServiceCatalogEndUserFullAccess	0	2015-09-30 03:41 UTC+0900	2015-09-30 03:41 UTC+0900

Agenda

- AWS Service Catalogとは
- AWS Service Catalogの基本的な概念
- AWS Service Catalogの利用
- AWS Service Catalogによる運用管理
- 料金
- まとめ



Service Catalogの利用



Service Catalog

企業のクラウドリソースを完全管理。
製品のグループを簡単に作成し、アクセス権限を管理して制約を設定します。

[今すぐ始める](#)



ポートフォリオの作成および管理

製品を整理してエンドユーザーに配信するには、ポートフォリオを使用します。

[詳細はこちら。](#)



カタログへの製品の追加

基幹業務製品、またはすでにライセンスを所有している製品をアップロードできます。

[詳細はこちら。](#)



ユーザーアクセスの管理

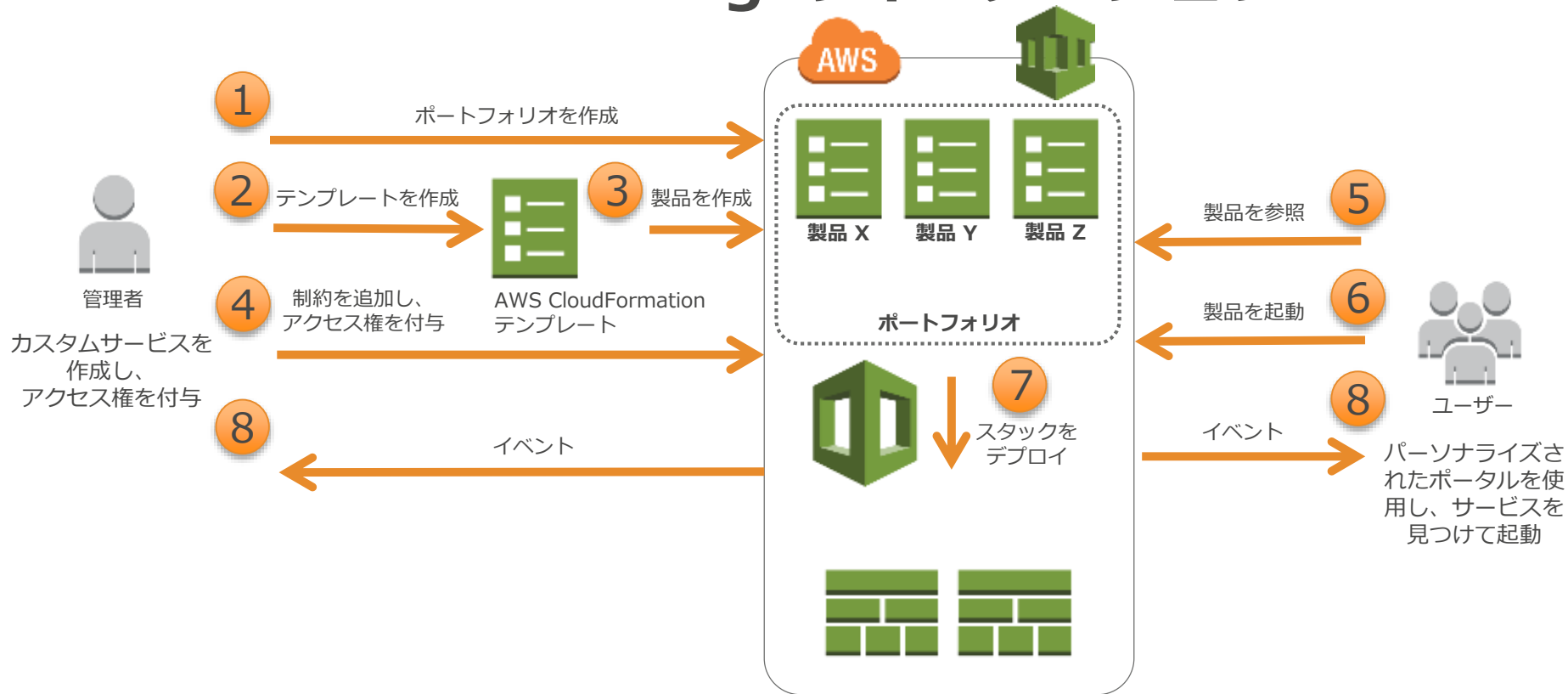
製品にアクセスし、それらの製品を起動できる場所と方法に関するポリシーを設定できるユーザーを決定します。

[詳細はこちら。](#)

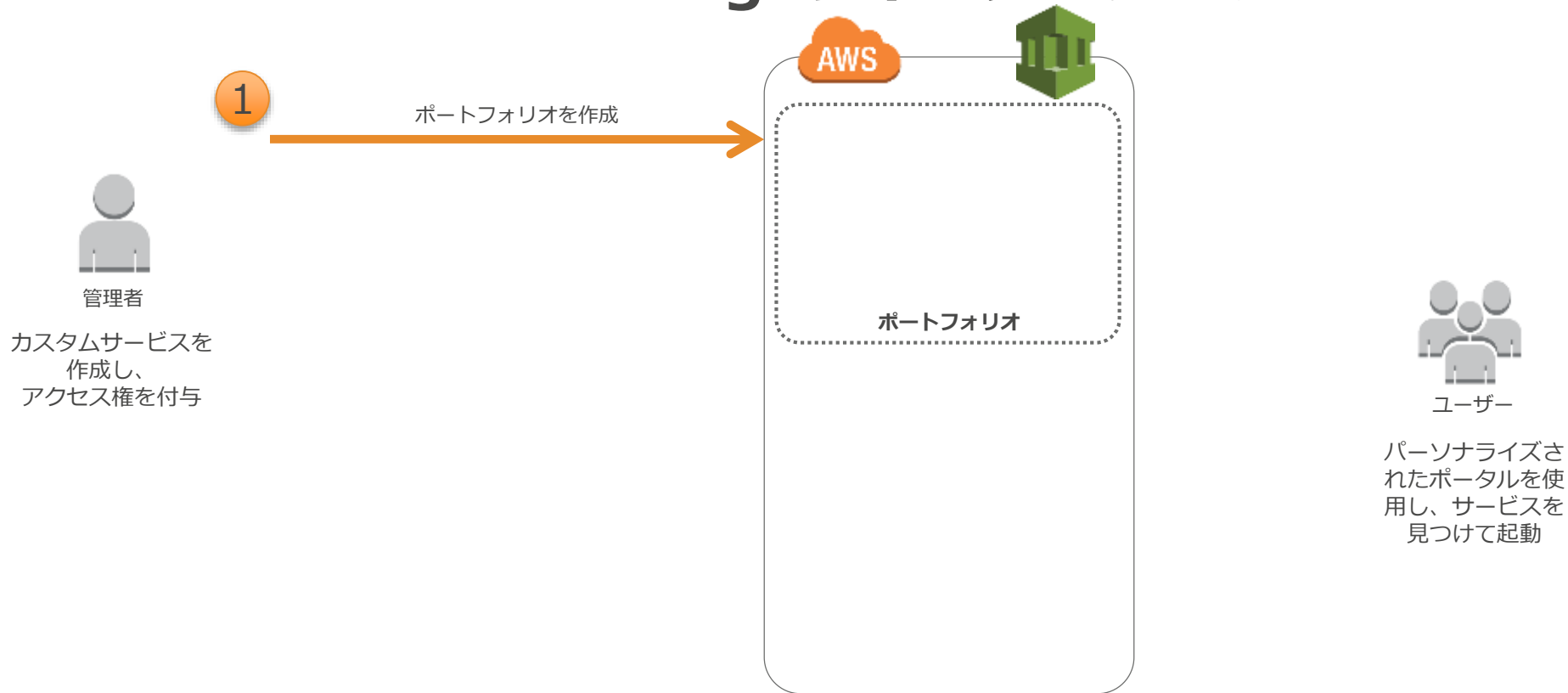
事前準備

- 必要なCloudformationテンプレートの準備
- IAMユーザの準備
 - カタログ管理者
 - ユーザ
- Service Catalogへのアクセス権付与

AWS Service Catalog のオペレーション



AWS Service Catalog のオペレーション



ポートフォリオの作成

ポートフォリオの作成

製品を整理してエンドユーザーに配信するには、ポートフォリオを使用します。ポートフォリオに製品を追加し、アクセス権限を付与して、ユーザーが製品を表示および起動できるようにします。

ポートフォリオ名*

わかりやすい ID (最大 100 文字) を入力します。

説明

ポートフォリオの詳細ページに表示される情報を追加します。

所有者*

ポートフォリオの作成者を示します (最大 20 文字)。

*必須

キャンセル

作成

任意のポートフォリオ名、説明、所有者を入力
(例)

[Portfolio name] – エンジニアリングツール

[Description] – 1 つの製品を含むサンプルポートフォリオ。

[Owner] – IT (it@example.com)

ポートフォリオでのタグの利用



▼ タグ (0)

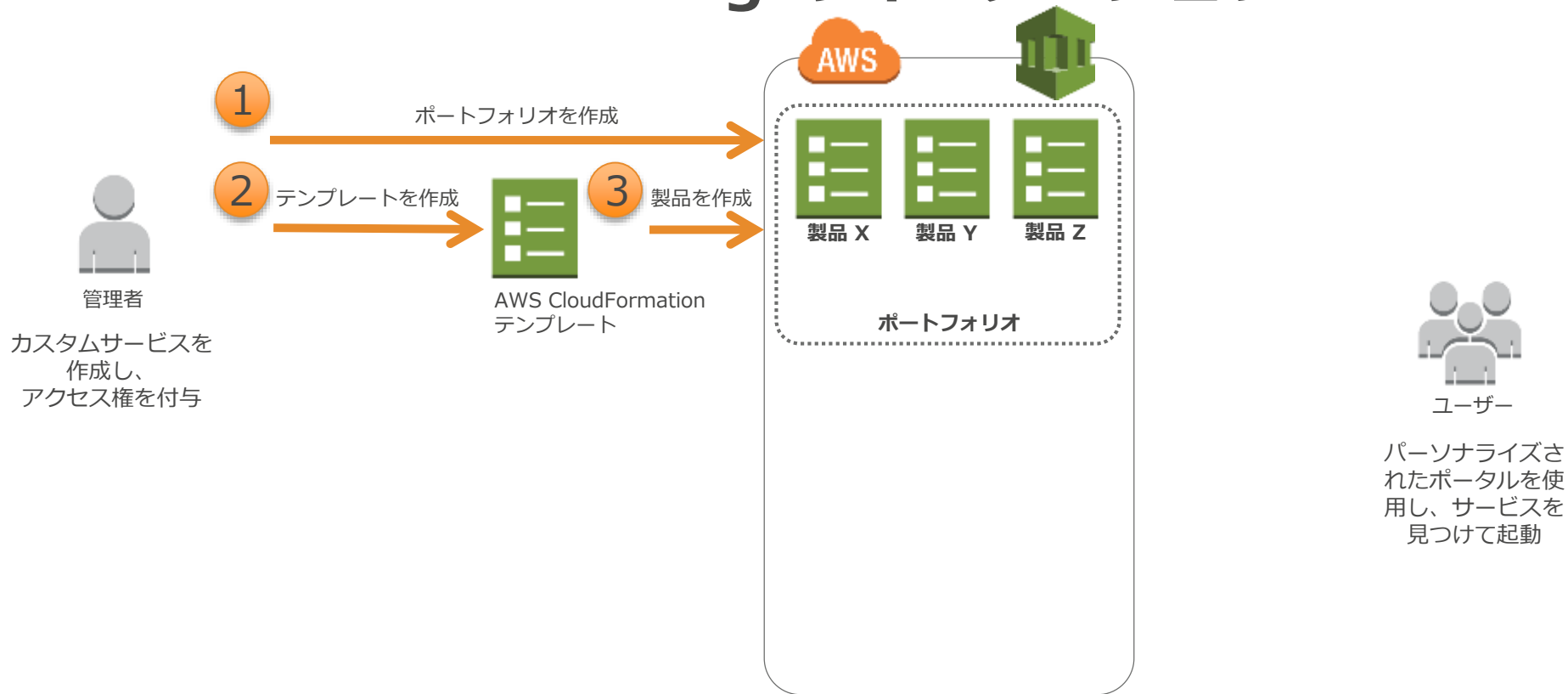
キー	値
Group	Engineering

タグの追加 タグの削除

タグをポートフォリオに追加すると、そのタグはポートフォリオの製品からプロビジョニングされるリソースのすべてのインスタンスに適用される。

- ・ リソースの識別、分類
- ・ IAMのユーザー、グループ、ロールに対するアクセスコントロール

AWS Service Catalog のオペレーション



製品の作成

製品



このポートフォリオに製品はありません

独自の製品を追加するか、AWS Marketplace から製品を選択できます。新しい製品を作成する必要がある場合は、プロセスを完了するために CloudFormation のテンプレートが必要です。

新しい製品のアップロード

製品の追加

制約

ユーザー、グループ、およびロール

他の AWS アカウントとの共有

タグ (1)

新しい製品のアップロード

Step 1: Enter product details

Step 2: Enter support details

Step 3: Select package

Step 4: Review

バージョンの詳細

テンプレートの選択

テンプレートファイルをアップロード

Amazon CloudFormation テンプレートの S3 URL を指定します

<https://awsdocs.s3.amazonaws.com/servicecatalog/development-environment/ten>

バージョンタイトル

v1.0

最大 30 文字の自由形式の文字列

説明

Base Version

この説明では、このバージョンと以前のバージョンとの違いを明確に示す必要があります。

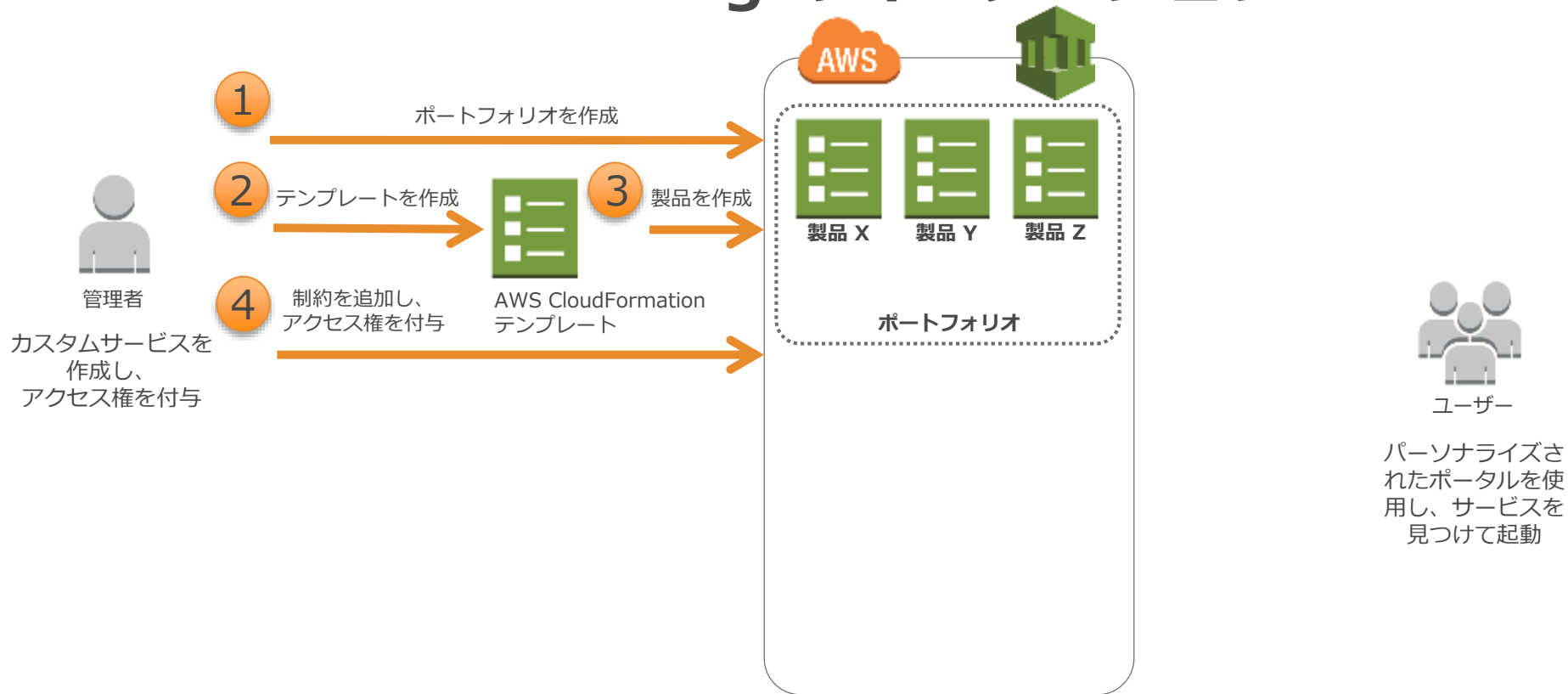
*必須

テンプレートを任意に選択可能

製品の適用

- 製品はCloudFormationのテンプレートをパッケージ化したものであり、バージョン管理されるもの
- 新しいバージョンの製品はポートフォリオを通じて製品にアクセスできるユーザが利用可能に
- AWS MarketPlaceの様々なサードパーティーツールも製品として登録可能
 - http://docs.aws.amazon.com/ja_jp/servicecatalog/latest/adminguide/catalogs_marketplace-products.html

AWS Service Catalog のオペレーション



制約

- テンプレート制約と起動制約の二種類が存在する

テンプレート制約の追加・アクセス権の付与

- AWS CloudFormation テンプレートで定義されているパラメータで許可される値の範囲を絞り込み
- 1つのポートフォリオで製品にテンプレート制約を適用し、別のポートフォリオにも、その製品を含める場合、制約は2番目のポートフォリオの製品には適用されない
- すでにユーザーと共有されている製品にテンプレート制約を適用する場合、制約はすべてのスタックの起動と、製品のすべてのバージョンに対してすぐに有効に



テンプレート制約のルール

赤字の部分に記述

- テンプレート制約をどういう条件で使用できるかと、テンプレートに記載されたパラメータで使える値を定義する
- 各ルールは、ルール条件 (オプション) とアサーション (必須) の 2 つのプロパティで構成
- ルール条件では、ルールがいつ有効になるかを決定。
- アサーションでは、特定のパラメータにユーザーが指定できる値を示す
- ルール条件を定義しない場合、ルールのアサーションが常に有効
- ルール条件とアサーションを定義するには、ルール固有の組み込み関数を使用
- 関数をネストすることができるが、ルール条件またはアサーションの最終結果は、true または false である必要がある

```
"Rules" : {
  "Rule01" : {
    "RuleCondition" : { Rule-specific intrinsic function },
    "Assertions" : [
      {
        "Assert" : { Rule-specific intrinsic function },
        "AssertDescription" : "Information about this assert"
      },
      {
        "Assert" : { Rule-specific intrinsic function },
        "AssertDescription" : "Information about this assert"
      }
    ]
  },
  "Rule02" : {
    "Assertions" : [
      {
        "Assert" : { Rule-specific intrinsic function },
        "AssertDescription" : "Information about this assert"
      }
    ]
  }
}
```

ルール関数

- 条件プロパティにより、AWS CloudFormation によってアサーションが適用されるかどうか決定。
- 条件が true に評価され、AWS CloudFormation がアサーションを評価して、スタックの作成または更新時にパラメータ値が有効かどうか確認
- パラメータ値が無効になっている場合、AWS CloudFormation はスタックを作成または更新しない
- 条件が false に評価される場合、AWS CloudFormation はパラメータ値を確認せず、スタック操作に進む

ルール関数

- Fn::And
- Fn::Contains
- Fn::EachMemberEquals
- Fn::EachMemberIn
- Fn::Equals
- Fn::If
- Fn::Not
- Fn::Or
- Fn::RefAll
- Fn::ValueOf
- Fn::ValueOfAll

ルール関数に関する注意点

- サポートされている関数に対する注意点
 - Fn::ValueOf および Fn::ValueOfAll 関数内で他の関数を使用することはできない。
 - ただし、他のすべてのルール固有の組み込み関数内では、以下の関数を使用可能。
 - Ref
 - その他のルール固有の組み込み関数

特定のリソースおよびパラメータ型に対して取得できる属性値

- AWS::EC2::VPC::Id パラメータ型または VPC ID
 - DefaultNetworkAcl
 - DefaultSecurityGroup
 - タグ.タグキー
- AWS::EC2::Subnet::Id パラメータ型またはサブネット ID
 - AvailabilityZone
 - タグ.タグキー
 - VpcId
- AWS::EC2::SecurityGroup::Id パラメータ型またはセキュリティグループ ID
 - タグ.タグキー

テンプレート制約の例（1）

```
{
  "Rules": {
    "Rule1": {
      "Assertions": [
        {
          "Assert" : {"Fn::Contains": [["t2.micro", "t2.small"], {"Ref": "InstanceType"}]},
          "AssertDescription": "Instance type should be t2.micro or t2.small"
        }
      ]
    }
  }
}
```

インスタンスタイプをt2.microもしくはt2.small

テンプレート制約の例（２）

```
"Rules" : {
  "testInstanceType" : {
    "RuleCondition" : {"Fn::Equals":[{"Ref":"Environment"}, "test"]},
    "Assertions" : [
      {
        "Assert" : { "Fn::Contains" : [ ["m1.small"], {"Ref" : "InstanceType"} ] },
        "AssertDescription" : "For the test environment, the instance type must be m1.small"
      }
    ]
  },
  "prodInstanceType" : {
    "RuleCondition" : {"Fn::Equals":[{"Ref":"Environment"}, "prod"]},
    "Assertions" : [
      {
        "Assert" : { "Fn::Contains" : [ ["m1.large"], {"Ref" : "InstanceType"} ] },
        "AssertDescription" : "For the prod environment, the instance type must be m1.large"
      }
    ]
  }
}
```

Environmentパラメータがtestのときに
m1.smallのインスタンスタイプを

Environmentパラメータがprodのときに
m1.largeのインスタンスタイプを

起動制約の適用、起動ロールの設定

- 起動制約では、スタックの作成と管理操作に AWS Service Catalog が引き受ける AWS Identity and Access Management (IAM) ロールを指定
- 起動制約がない場合、ユーザは各自（もしくはグループ）に割り当てられたIAMの権限によって、製品を起動し、管理する必要がある。
- 起動の時以外は利用しない権限を割り当てていることは過剰な権限になってしまうことがあるかもしれないため、起動制約によって一時的にロールを割り当てるのが有効

起動制約の適用、起動ロールの設定

- IAM ロールには、AWS Service Catalog との信頼関係も必要
 - これにより、AWS Service Catalog は起動プロセス中にロールを引き受けてリソースを作成することが可能
- 起動制約として製品に割り当てる IAM ロールには、次の AWS サービスを使用するアクセス権限が必要
 - AWS CloudFormation
 - 製品用に AWS CloudFormation テンプレートに含まれているサービス
 - Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)

http://docs.aws.amazon.com/ja_jp/servicecatalog/latest/adminguide/constraints-launch.html

ポートフォリオの共有

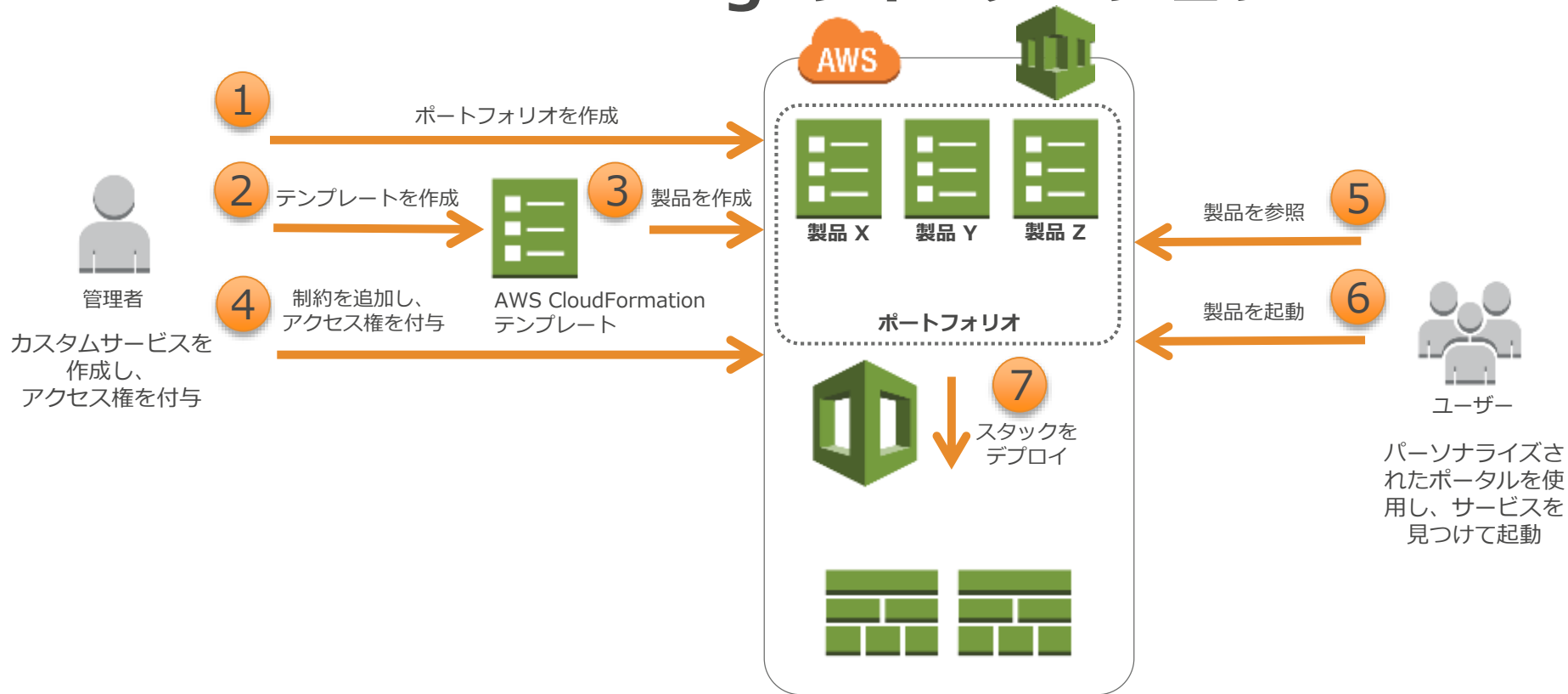
- 製品を含んだポートフォリオ自体を他のAWSアカウントが作成したもののからインポートしてることができる。
- ポートフォリオ作成者
 - 共有元となるポートフォリオの管理者
- 受取人管理者
 - ポートフォリオの共有を受けた側の管理者
- 継承
 - ポートフォリオ管理者がポートフォリオに変更を加えると自動的に反映される。
 - インポートされたポートフォリオは共有されているが、ポートフォリオの管理者はインポート元になるため、受取人管理者はポートフォリオへのアップロードなどはできない。

ポートフォリオの共有

AWS アカウントに属していないユーザとの共有

共有ポートフォリオの要素	インポートされたポートフォリオとの関係	受取人管理者が実行できる操作	受取人管理者が実行できない操作
製品と製品バージョン	継承されます。 ポートフォリオ作成者が共有ポートフォリオに製品を追加または削除すると、変更はインポートされたポートフォリオに伝播されます。	インポートされた製品をポートフォリオに追加する。製品は、共有ポートフォリオとの同期を維持します。	インポートされたポートフォリオに製品をアップロード、追加、または削除する。
制約の起動	継承されます。 ポートフォリオ作成者が共有製品に起動制約を追加または削除すると、変更は製品のすべてのインポートされたインスタンスに伝播されます。 受取人管理者がインポートされた製品をローカルポートフォリオに追加すると、その製品に適用された、インポートされた起動制約が、ローカルポートフォリオにも存在します。	ローカルポートフォリオで、管理者は別の起動制約を製品に適用して、インポートされた起動制約を上書きできません。	インポートされたポートフォリオとの間で、起動制約を追加または削除する。
テンプレートの制約	継承されます。 ポートフォリオ作成者がテンプレートの制約を共有製品に追加または削除すると、変更は製品のすべてインポートされたインスタンスに伝播されます。 受取人管理者がインポートされた製品をローカルポートフォリオに追加すると、製品に適用された、インポートされたテンプレートの制約がローカルポートフォリオによって継承されます。	ローカルポートフォリオで、管理者は、インポートされた制約に加えて有効になるテンプレートの制約を追加できません。	インポートされたテンプレートの制約を削除する。
IAM ユーザー、グループ、ロール	継承されません。	管理者の AWS アカウントに属する IAM ユーザー、グループ、およびロールを追加する。	該当しません。
タグ	継承されません。	タグを追加する。	該当しません。

AWS Service Catalog のオペレーション



製品の参照・起動

製品

すべての製品の表示

製品の起動



名前でフィルター

1つの製品を表示中

製品名	提供元	説明
<input type="checkbox"/> Linuxデスクトップ	IT	クラウド開発環境

スタック

すべてのスタックの表示

スタックの更新

スタックの終了



表示: ユーザー

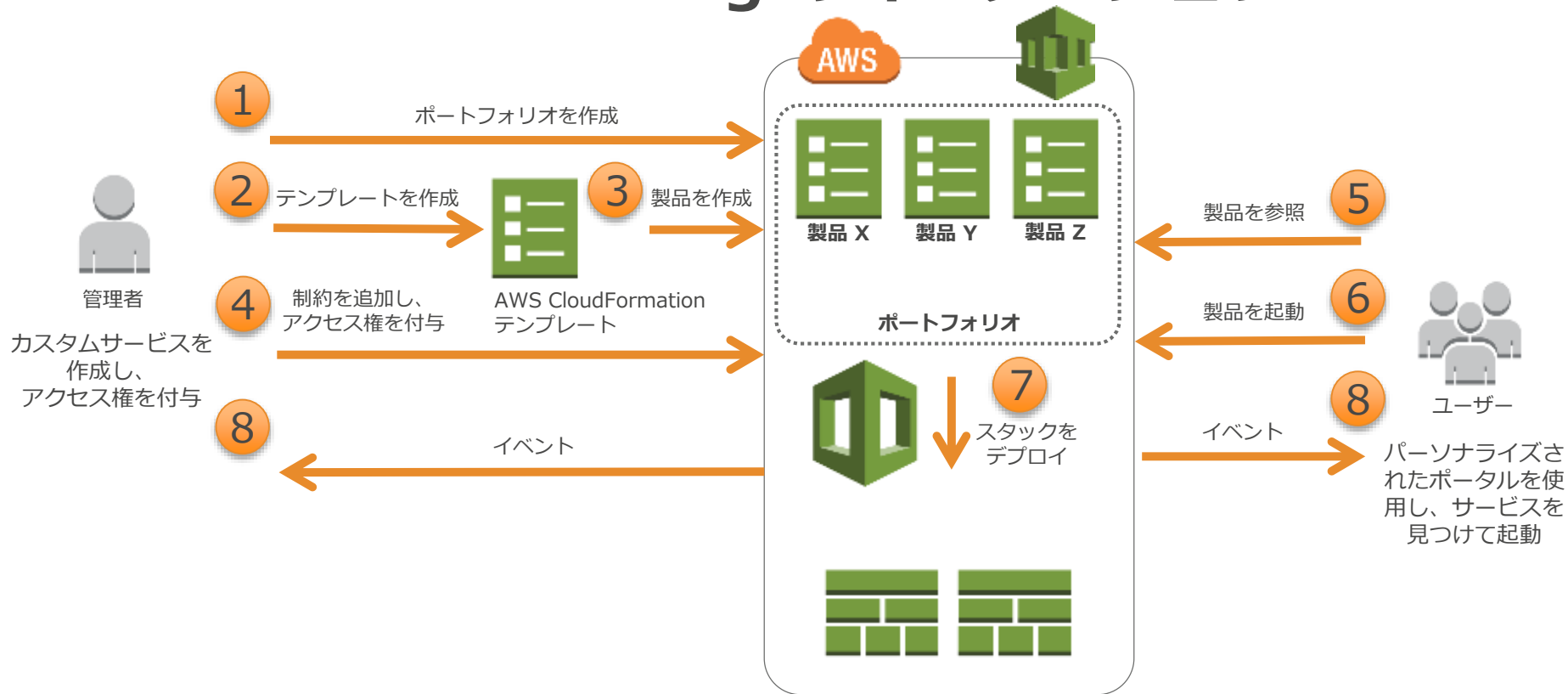
名前でフィルター

スタックが見つかりません

スタックの名前	作成時刻	状況	状況メッセージ
---------	------	----	---------

エンドユーザがログインすると、Service Catalogエンドユーザコンソールから製品とスタックを選択可能

AWS Service Catalog のオペレーション



Agenda

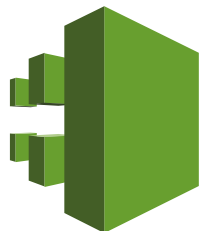
- AWS Service Catalogとは
- AWS Service Catalogの基本的な概念
- AWS Service Catalogの利用
- AWS Service Catalogによる運用管理
- 料金
- まとめ



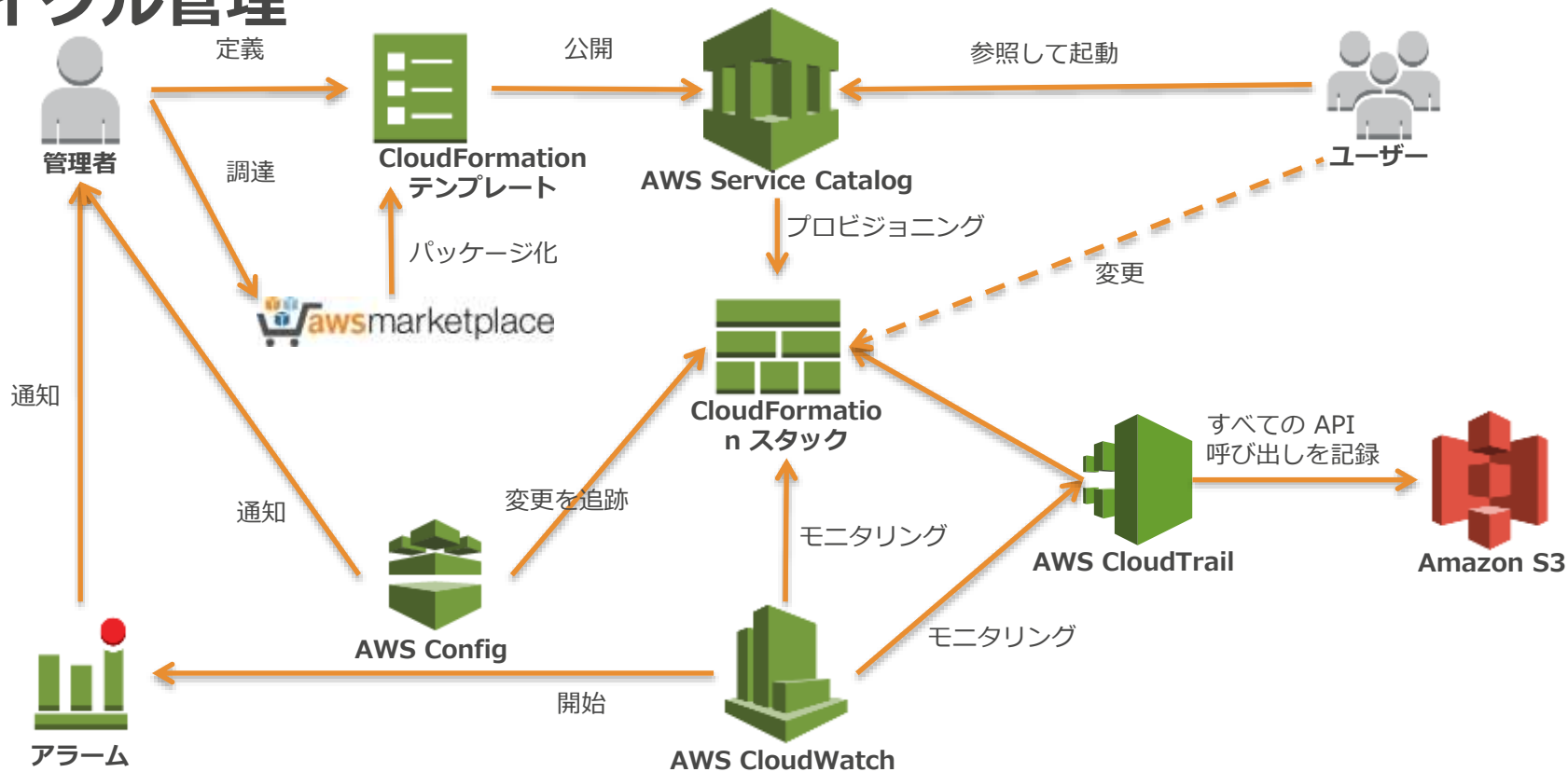
組織のガバナンスのために行いたい事

予防的な統制と発見的な統制の効果的な組み合わせ

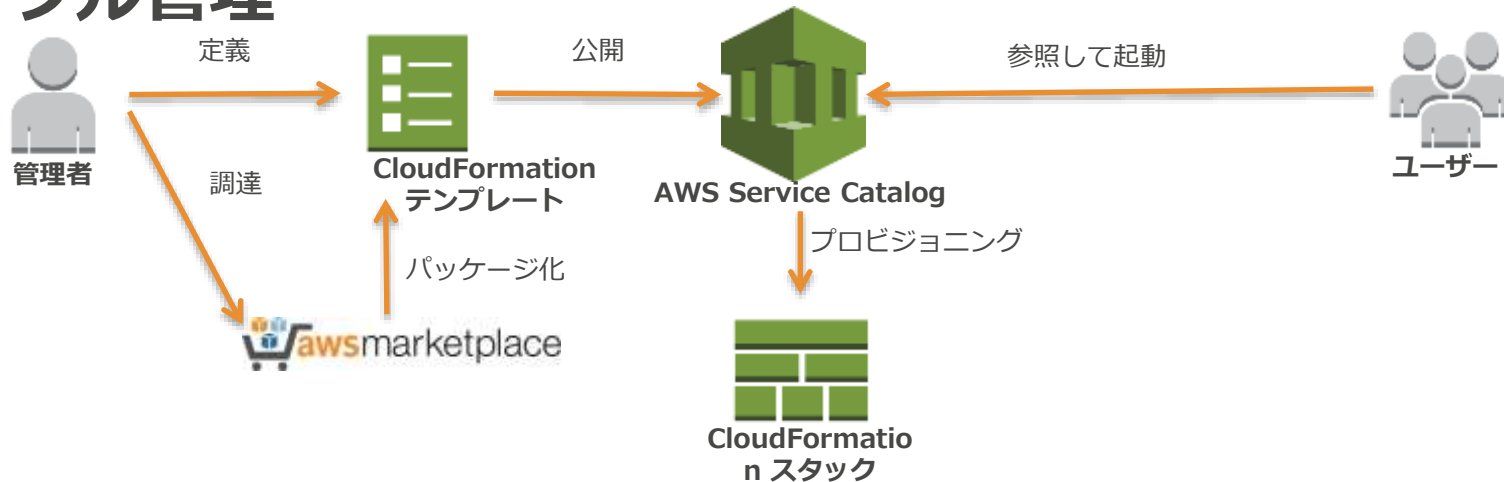
- 権限のコントロール – Service Catalogの活用
- 証跡の取得、管理 – CloudTrail、S3の活用
- 変更の追跡、通知 – AWS Config
- 異常の発見、通知 – CloudWatch



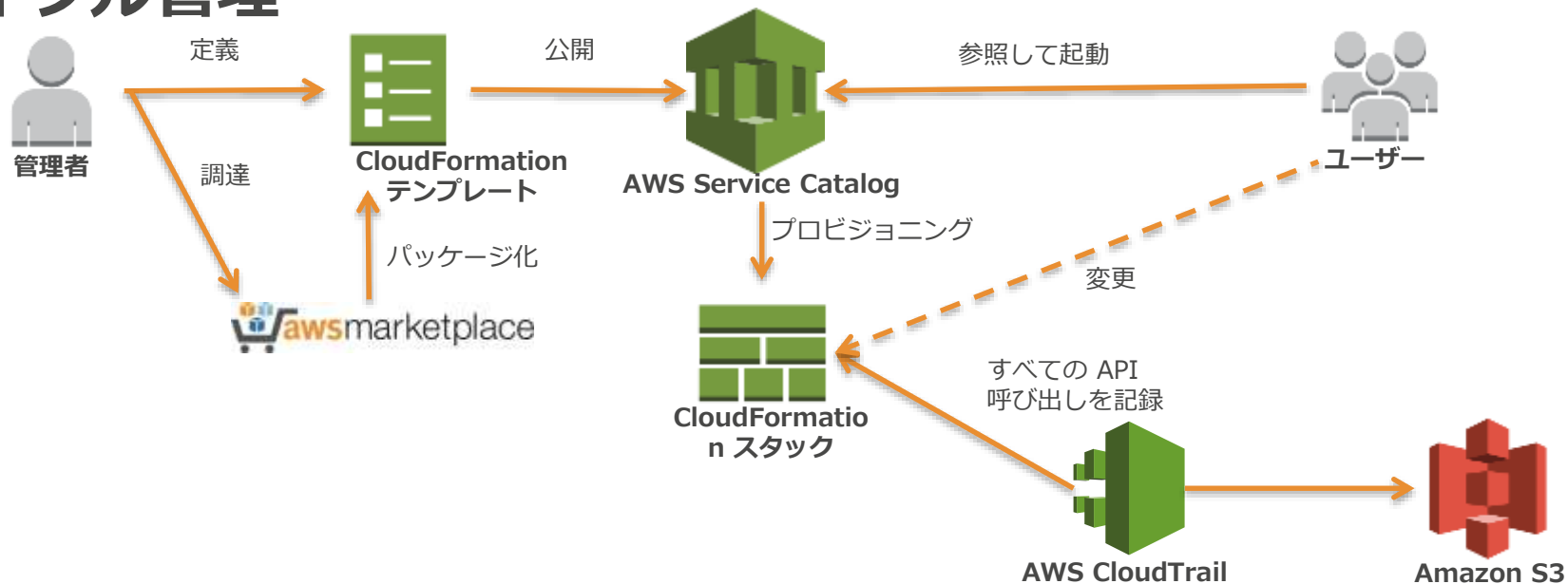
AWS Service Catalog を使用した IT 製品のライフサイクル管理



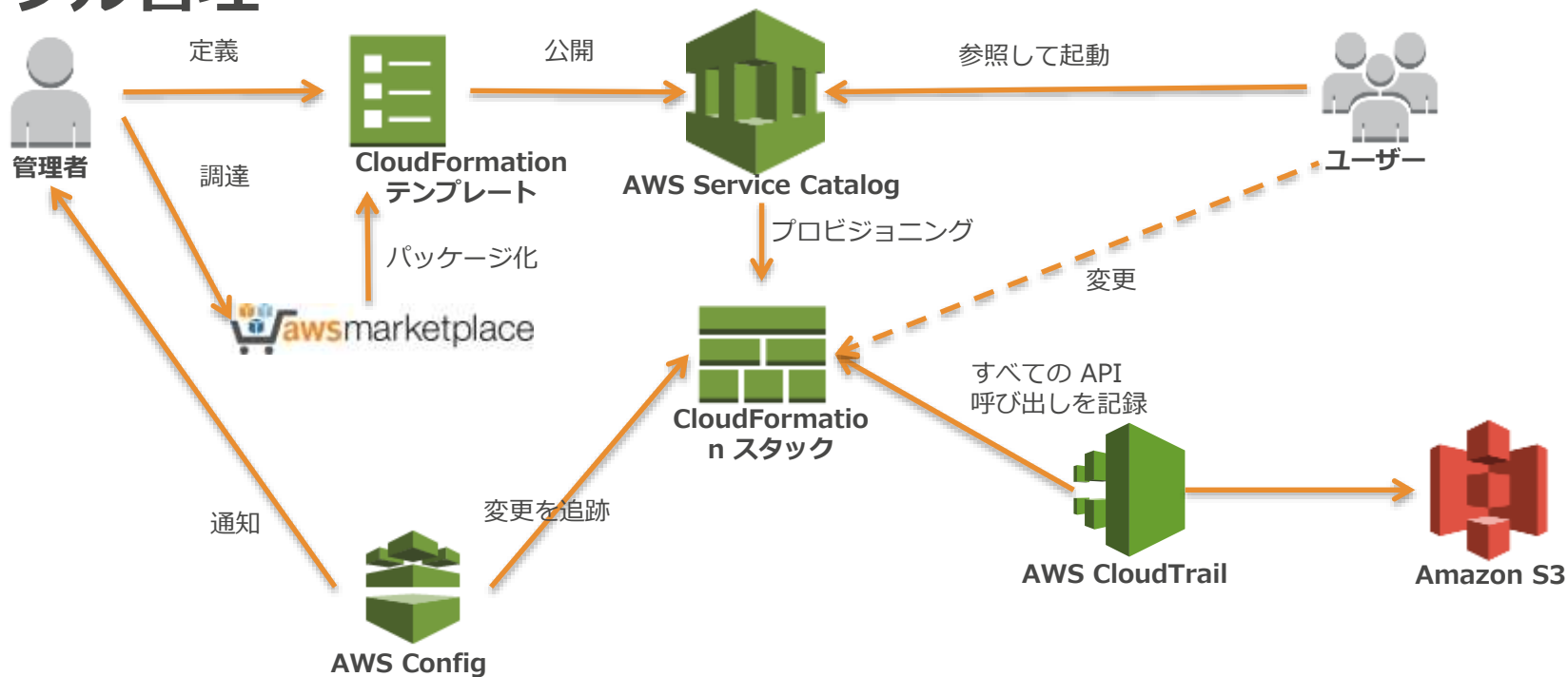
AWS Service Catalog を使用した IT 製品のライフサイクル管理



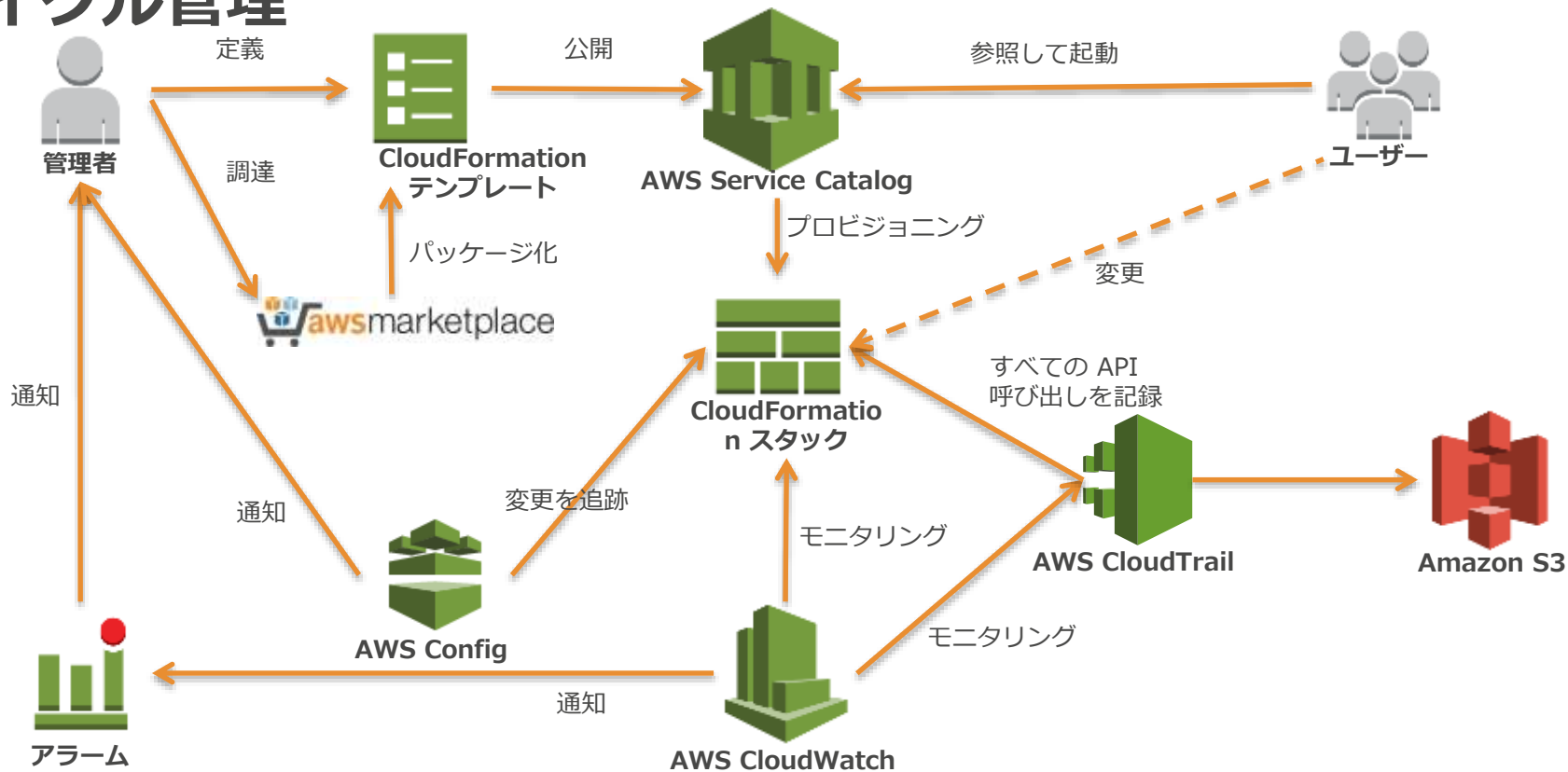
AWS Service Catalog を使用した IT 製品のライフサイクル管理



AWS Service Catalog を使用した IT 製品のライフサイクル管理

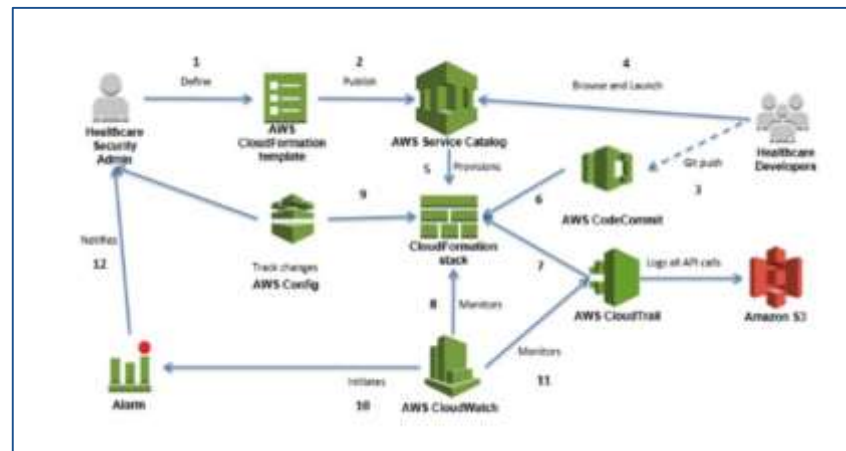


AWS Service Catalog を使用した IT 製品のライフサイクル管理



Service Catalogによるコンプライアンス準拠環境例 (HIPAA)

- DevSecOpsメソッドを活用したヘルスケアセキュリティの実践例
- Service Catalogが一定のセキュリティを準拠した環境を提供する中心となる。(現在許可されている環境のバージョンングや製品など)



<http://blogs.aws.amazon.com/security/post/TxAHB2MFO7QCIX/How-to-Automate-HIPAA-Compliance-Part-2-Use-the-AWS-Service-Catalog-for-Code-Dep>

Agenda

- AWS Service Catalogとは
- AWS Service Catalogの基本的な概念
- AWS Service Catalogの利用
- AWS Service Catalogによる運用管理
- 料金
- まとめ



料金

- お客様のアカウントの製品のポートフォリオごとに、
1 か月あたり 5 USD の固定料金
- 料金は、製品の数またはポートフォリオに割り当てられたユーザーの数によって変動しない。
- ユーザーがポートフォリオまたはアカウントに対して実行できる製品起動操作の回数に対する制限はなし。
- 月額固定料金が課金されるのは、**ユーザーをポートフォリオに割り当てた翌日**、および翌月からは毎月 1 日となる。
- AWS リソース（EC2 インスタンス、RDS データベースなど）を手動で作成した場合と同様に、AWS Service Catalog を使用して作成する AWS リソースには課金が発生。

料金の例(1)

- ある月の 1 日にポートフォリオを作成し、1 人以上のユーザーを割り当てた場合、この月と翌月から毎月、このポートフォリオを削除するか、割り当てたすべてのユーザーを削除するまで、このポートフォリオに対して毎月 5 USD の料金が課金されます。



ユーザ割り当ての翌日に課金

翌月からは一日に課金

製品、ユーザの数には関係ない

料金の例(2)

- ある月の 10 日にポートフォリオを作成し、1 人以上のユーザーを割り当てた場合、11 日と、翌月から毎月 1 日に、このポートフォリオを削除するか、割り当てたユーザーを削除するまで、このポートフォリオに対して 5 USD が課金されます。



月の半ばに作成しても定額

料金の例(3)

- ある月の 10 日にポートフォリオを作成し、翌月 15 日にそのポートフォリオに 1 人以上のユーザーを割り当てた場合、割り当てた月の16日から、その翌月の毎月 1 日に、このポートフォリオを削除するか、割り当てたユーザーを削除するまで、このポートフォリオに対して 5 USD が課金されます。



タイミングはユーザの割り当て時

料金の例(4)

- ある月の 10 日にポートフォリオを作成し、1 人以上のユーザーを割り当て、その月の 15 日にそのポートフォリオを削除した場合、11 日にこのポートフォリオに対して 5 USD が課金されますが、それ以降は課金されません。



月内に削除してもユーザ割り当てを契機として課金

料金の例(5)

- ポートフォリオを作成し、そのポートフォリオを他のアカウントと共有した場合、作成し、1人以上のユーザーを割り当てるポートフォリオに対して、毎月 5 USD が課金されます。
- ポートフォリオを他のアカウントと共有しても、料金は別途発生しません。
- 別のアカウントからのポートフォリオを共有している場合、自分のアカウントからユーザーをそのポートフォリオに割り当てたときに、毎月 5 USD の料金が課金されます。
- 自分のアカウントから共有ポートフォリオへのユーザーの割り当ては、いつでも削除できます。削除すると、翌月から課金が発生しなくなります

Agenda

- AWS Service Catalogとは
- AWS Service Catalogの基本的な概念
- AWS Service Catalogの利用
- AWS Service Catalogによる運用管理
- 料金
- まとめ



AWS Service Catalogがもたらすもの

- 管理者にとって

- 利用部門となるエンドユーザに一定の制約下での自由を与えたセルフサービス環境を提供できる
- 管理者によって組織のガバナンスを容易に適用できる
- 過剰な権限をエンドユーザに与えることなくAWSリソースを管理できる
- ポートフォリオやバージョン管理という形でCloudFormation環境を効率的に管理することができる

- エンドユーザにとって

- サービスの立ち上げに当たってカタログから選択するだけですみやかな立ち上げができる
- インスタンスタイプなどを自分たちの要望にあわせてセルフサービスで立ち上げができる

参考情報

- AWS Service Catalog 製品ページ
<https://aws.amazon.com/jp/servicecatalog/>
- AWS Service Catalog FAQ
<https://aws.amazon.com/jp/servicecatalog/faqs/>
- AWS Service Catalog 料金
<https://aws.amazon.com/jp/servicecatalog/pricing/>

Webinar資料の配置場所

- AWS クラウドサービス活用資料集

- <http://aws.amazon.com/jp/aws-jp-introduction/>

プロダクト別：				
Amazon S3		AWSマイスターシリーズ Re:Generate Amazon Simple Storage Service (S3)	Slideshare	PDF
Amazon Glacier		AWSマイスターシリーズ Reloaded Amazon Glacier Amazon Glacierのご紹介 機能編	Slideshare (Reloaded) Slideshare (機能編)	PDF (Reloaded) PDF (機能編)
Amazon Route 53		AWSマイスターシリーズ Re:Generate	Slideshare	PDF

公式Twitter/Facebook AWSの最新情報をお届けします



@awscloud_jp



検索



もしくは
<http://on.fb.me/1vR8yWm>

最新技術情報、イベント情報、お役立ち情報、お得なキャンペーン情報などを
日々更新しています！

